
大学教育学会ニュースレター

No.126 2024.04.22

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail: office@jacue.org URL: http://jacue.org

大学教育学会第46回大会を開催するにあたって

大学教育学会第46回(2024年)大会

大会実行委員長 藤木 清

本年の6月8日(土)と9日(日)の両日、大学教育学会第46回大会を、関西国際大学神戸山手キャンパスで開催させていただくこととなりました。今回の大会は基調講演とシンポジウムも含め、すべて対面での開催となります。会員同士の親交が深まる大会になるよう、大会企画委員会ならびに学会事務局のご協力のもと、準備を進めているところでございます。

統一テーマは、「大学教育は持続可能か?～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に日本の大学教育はどう立ち向かうのか～」です。少子化により日本はすでに人口減少局面を迎えている一方、大容量通信技術の進展とコロナ禍の影響で、教育現場ではオンデマンド教材やオンライン授業が特別なものではなくなりました。それとほぼ時期を同じくして生成AI技術を活用したインターネットサービスが始まり、企業や自治体での利用が進んでいます。これを受けて教育現場では生成AIサービスをどのように教育に取り入れるべきか、学習者に何を教えるべきかについて、多様な視点で深い議論が繰り広げられております。このような急激かつ大きな社会的変化に対して、大学教育はどのように向き合い新たな場を創造していけばよいのでしょうか。皆様と共に考える機会になればと思います。

基調講演には、韓国大学教育協議会の前会長張済国先生に、日本よりも少子化が深刻な韓国における大学教育の現状についてお話しいただきます。シンポジウムには、文部科学省大臣官房審議官(高等教育担当)の伊藤学司氏、地域振興を推進されている共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生先生、留学生教育を推進されている山梨学院大学学長の青山貴子先生をお迎えし、張済国先生にもご参加いただきます。統一テーマについて多面的な視点からご議論されることを期待しております。

関西国際大学の母体である学校法人濱名山手学院は、2020年4月に旧学校法人濱名学院と旧学校法人神戸山手学園とが法人統合し新たに出発しました。2024年は学校法人神戸山手学園が創立してから100周年を迎えます。合併にあたり、新たに学院全体の教育活動を包含するものとして「濱名山手学院教育ミッション」を定めました。それは、大学並びに各学校園の建学の精神を尊重しながらも、変化し続ける社会において生涯学び続けていくことができる基礎的な力を修得してもらう教育を、学院全体として展開することを表明したものです。先述の通り、社会情勢は人口減少のもと、DX化やグローバル化の進展によって変化は一層加速しつつあります。これらにも的確に対応すべく改革を進め地域に根差した特色ある教育活動を展開しております。

関西国際大学では2017年に尼崎キャンパスにおいて本学会の課題研究集会を開催しましたが、大会の開催は初めてとなります。今回の会場は神戸山手キャンパスとなります。本大会ではラウンドテーブルに18件、自由研究発表に102件と、多くの発表申し込みをいただいております。また、情報交換会も開催する予定です。会員の皆様の議論と交流が促進される場となるよう、準備してまいります。

山と海に囲まれた異国情緒漂う国際都市神戸にて、実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大学教育学会第46回（2024年）大会

統一テーマ

大学教育は持続可能か？

～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に日本の大学教育はどう立ち向かうのか～

1. 開催期日、形式および会場

期日 2024（令和6）年6月8日〔土〕、6月9日〔日〕

形式 対面形式のみ

※ オンライン配信はございません

会場 関西国際大学 神戸山手キャンパス 1号館

（神戸市中央区諏訪山町3-1）

参加受付：1号館玄関ロビー

初めて参加する人のためのオリエンテーション：1-536教室

ラウンドテーブル：1号館2階～4階教室

基調講演・シンポジウム・事業報告会：1-536教室

自由研究発表：1号館2階～4階教室

第1日：6月8日〔土〕

8:30	10:00	12:00	13:00	13:40	13:50	14:00	15:00	15:10	17:30	17:45	19:15
受付		ラウンド テーブル	昼食 理事会	事業 報告会	開会 行事	基調講演		シンポジウム		情報交換会	



9:00-9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

8:30 -	受付開始
9:00 - 9:45	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 - 12:00	ラウンドテーブル
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:40	事業報告会
13:50 - 14:00	開会行事（会長挨拶、開催校学長挨拶）
14:00 - 15:00	基調講演
15:10 - 17:30	シンポジウム
17:45 - 19:15	情報交換会

第2日：6月9日〔日〕

9:00	10:00	12:00	13:00	15:00
受付	自由研究発表 I	昼食	自由研究発表 II	

9:00 - 10:00	受付
10:00 - 12:00	自由研究発表 I
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 15:00	自由研究発表 II

2. 進行の詳細

6月8日（土）

8:30～ 受付（1号館1階ロビー）

9:00～9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

会場：1-536 教室

担当：事業構想委員会

10:00～12:00 ラウンドテーブル

テーブル1 社会文化は学生のリーダーシップ発達にいかに関与を与えるか
—自分らしく生きるための「女性とリーダーシップ」開発に向けて—

会場：1-303 教室

企画者：和栗百恵（福岡女子大学）、河井亨（立命館大学）、泉谷道子（創価大学）、岡村利恵（埼玉大学）、小山理子（京都光華女子大学）

趣旨：2023年度RT（『女性』リーダーシップ教育開発：社会変革志向のリーダーシップ開発に向けて）では、社会構造を捉え返す、つまり「解放」を促すリーダーシップ教育実践の必要性を提起した。本RTでは、社会変革志向のリーダーシップと「解放」の具体の把握に向け、「文化の影響を考慮したリーダーシップ学習（CRL）」を用いて検討する。学生や教職員が有する複数のアイデンティティや規範・信念、カリキュラム、キャンパス文化、地域性などの社会文化的要因は、学生のリーダーシップ発達にどのような影響を与えるか。より深い（deeper）リーダーシップアイデンティティ発達はいかにして可能か。多様な参加者と議論を深めたい。

テーブル2 学習成果の可視化とその応用：学修支援または教育的介入のための手段として

会場：1-305 教室

企画者：大西好宣（千葉大学）、阿部仁（一橋大学）、上杉裕子（叡啓大学）

趣旨：今世紀に入り、学習者中心主義の高まりから、学習成果の可視化が大きな注目を浴びている。日本人学生の海外留学に関しても、帰国者への満足度調査のみを中心とした初歩的な段階を過ぎ、現在では留学前後の調査・測定と比較を通じた、より科学的で信頼性の高い調査事例が散見されるようになった。当該事例を通じた研究者間の情報共有もようやく進みつつある。しかし、学習者中心主義の本義に戻るならば、そうした調査結果は最終的に学習者の益となるべきであろう。本ラウンドテーブルでは、来るべき時代を見据えた活用事例として、BEVI※及びJAOS留学アセスメントを用いた、学生に対する学習成果の可視化と教育的介入の応用事例を紹介する。

テーブル3 コロナ禍・ポストコロナ禍における学寮プログラムの挑戦からの示唆

—国際比較の視点から—

会場：1-307 教室

企画者：安部有紀子（名古屋大学）、日暮トモ子（日本大学）

趣旨：本ラウンドテーブルは、米国、カナダ、中国、韓国の4カ国の大学の学生寮において展開されている学寮プログラム（Residence Life Programs）に焦点を当てる。学生寮は各国の様々な歴史的、文化的経緯や、社会的な状況により、その目的や運営方法は異なっている。本ラウンドテーブルでは、教育的な志向の強い戦略的に開発された学寮プログラムを取り上げ、具体的な事例をもとに、コロナ禍を通じて見出された各国の学寮プログラムの特徴や共通点、またコロナ禍後の状況について明らかにしていきたい。

テーブル4 大学入学までの探究活動の体験と大学教育との接続を考える

—新学習指導要領で学んだ2025年度新入生を迎えるにあたって—

会場：1-308 教室

企画者：田尾周一郎（岡山大学）、田中岳（岡山大学）、野瀬健（九州大学）、井ノ上憲司（大阪大学）、吉川幸（岡山大学）、福留東土（東京大学）、和賀崇（岡山大学）

趣旨：本ラウンドテーブルでは、大学入学までの学習経験の変化と大学教育とを繋ぐための課題、あるいは繋がらずにおくことの意義について議論していきたい。2025年度新入生の多くは新しい学習指導要領のもとで学んできたことになる。この新学習指導要領は、主体的・対話的で深い学びを重視することが特徴であり、協働的な探究学習もその一部として実施されてきた。大学初年次の探究系科目として従前より取り組んできた実践や2025年度に向けた新カリキュラム構想などを踏まえ、高校での探究体験を活かす授業科目が抱える課題をあぶり出し、探究活動の体験を大学教育にどのように活かすか、また学生の成長をいかに評価・測定できるか等について検討する。

テーブル5 大学教員の教育力向上に向けたFDのあり方 —FDマップの開発に向けて

会場：1-314 教室

企画者：岩野摩耶（山口大学）、竹中喜一（近畿大学）、山映博昭（広島市立大学）、畠田敏行（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）

趣旨：FD義務化から15年以上が経過し、各大学では各種講演会やシンポジウムをはじめとして様々な活動を実施してきている。しかし、教員個人や組織の状況に応じたFDが展開できているのか等、課題も残されている。そこで、企画者らは教育力の向上に向けて、大学の特性に依らず、必要なFDを検討できる枠組みとしてのFDマップの開発を試みている。本ラウンドテーブルでは、はじめに企画者から話題提供をした上で、参加者はグループに分かれてFDにおける課題の洗い出しやFDマップの評価を行い、FDマップの開発に向けて議論したい。

テーブル6 大学教育におけるSDGsの推進に関する研究

会場：1-313 教室

企画者：出光直樹（横浜市立大学）、小林勝法（文教大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）、江原昭博（関西学院大学）、加藤毅（筑波大学）、北徹朗（武蔵野美術大学）、成田秀夫（桐蔭横浜大学）、平工志穂（東京女子大学）

趣旨：国連が定めたSDGsの達成に関して、大学は重要な役割を果たすことが期待されている。大学は研究によってイノベーションを起こし、将来のリーダーを育成し、地域社会の発展においてもイニシアチブを発揮できるからである。日本学術会議は、大学においても「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）」をこれまで以上に推進することの必要性を訴えている。そこで、本ラウンドテーブルでは、大学生のESDの経験と大学教育への期待を踏まえて、高大接続の観点から学生募集におけるSDGsの現状や高校生・大学生を対象としたSDGs表彰制度をもとに、大学がSDGsに取り組む意義について議論したい。

テーブル7 一般教育の知的遺産を活かす

〔その15〕ポストコロナにおける教養教育の原点を問い直す

会場：1-337 教室

企画者：深野政之（大阪公立大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）、塩沢一平（二松学舎大学）、井上美香子（福岡女学院大学）、大関智史（宮崎大学）

趣旨：本学会在り方検討委員会（1996年）では、一般教育学会からの学会名変更に当たり、本学会に「戦後の一般教育課程の功罪や理念を再確認する歴史的責任」があるという認識が示された。これを受け本RTでは2007年より教養教育〔語学、体育、正課外教育を含む〕の課題について検証してきた。今回は、知識・技能の伝達に大学教育の重点が置かれる中、豊かな人間性を涵養するという教養教育の原点に今一度立ち返ることにより、ポストコロナにおける教養教育のあり方を検討する。

報告1:大関智史「米国地方州立大学における一般教養プログラムの改革」

報告2:塩沢一平「教養教育を前進させる：at the center corona から after corona へ」

テーブル8 汎用的／分野横断的な能力は育成可能か

—学士課程カリキュラムの比較を通して—

会場：1-335 教室

企画者：松下佳代（京都大学）、奥村百香（京都大学大学院）、田中孝平（京都大学大学院）、山本達也（清泉女子大学）、岡田航平（京都大学大学院）、布柴達男（国際基督教大学）、平山朋子（藍野大学）、田中一孝（桜美林大学）、梅川紗綾（京都大学大学院）、澤邊潤（新潟大学）

趣旨：近年、汎用的／分野横断的な能力がさまざまな名称で語られ、その育成が高等教育の課題となっている。私たちは、2022年大会で、「汎用的能力の育成と評価の可能性—ミネルヴァ・モデルを手がかりに—」というラウンドテーブルを行い、その成果を『ミネルバ大学を解剖する』（東信堂、近刊）という単行本にまとめるに至った。このラウンドテーブルでは、そこで得た知見を土台に、日本の学士課程教育において汎用的／分野横断的な能力は育成可能かを検討する。具体的には、清泉女子大学地球市民学科、ICU、桜美林大学、新潟大学創生学部という4つの組織のカリキュラムを比較しながら、このテーマに迫ることとする。

テーブル9 『歴史総合』の必修化がもたらす大学教育への影響

—大学全入時代における歴史教養の格差拡大を憂う—

会場：1-403 教室

企画者：鶴飼昌男（神戸学院大学）、芝井敬司（関西大学）、居神浩（神戸国際大学）、児玉英明（名古屋大学）、阿部勘一（成城大学）

趣旨：2019年高等学校学習指導要領の改訂では、近現代史を範囲とする日本史・世界史を融合した「歴史総合」が必修化された。この科目では、通史的な知識の習得や講義的な授業を行うことは好ましくないとされているが、これは歴史教養の基礎知識をどの教育段階が担うのかという観点から言えば、日本の歴史教育の根幹に関わる大きな変更であると考えられる。大学全入時代を迎えた今、高校生はどのような歴史教養を身につけて大学へ入学してくるのか。「歴史総合」必修化がもたらす大学教育への影響について、高大接続の視点からその問題点を洗い出し、大学の初年次教育における歴史教養科目のあり方を議論する。

テーブル10 実践コミュニティにおける活動と学び合いの推進に向けて

—パターン・ランゲージを用いた事例検討とワークショップ—

会場：1-437 教室

企画者：デイヴィス恵美（大阪成蹊大学）、長田尚子（立命館大学）、高尾郁子（京都薬科大学）、神崎秀嗣（秀明大学）、田中浩朗（東京電機大学）、勝又あずさ（成城大学）、坂本洋子（白鷗大学）、田口真奈（京都大学）

趣旨：教育改善に向けて教員による実践コミュニティの存在が注目されているが、実践コミュニティの当事者がコミュニティについて語り合うことは少なく、実践コミュニティとは何なのかについて十分検討が進んでいない。本ラウンドテーブルでは、登壇者らが開発した教員コミュニティのパターン・ランゲージを用い、教員がコミュニティで活動し学び合うことについて参加者とともに考察を深める。後半にはパターン・ランゲージを用いたワークショップ形式の活動を通じ、学び合うコミュニティをつくる仕掛けを考える。まとめとして、実践コミュニティの設計者による総括的な考察を踏まえ、大学教育における実践コミュニティの意義と役割を考える。

テーブル11 大学の量と質をさだめる制度の比較研究

—日本の退場促進政策を世界の事例から考える—

会場：1-336 教室

企画者：濱名篤（関西国際大学）、山田礼子（同志社大学）、塚原修一（関西国際大学）、近田政博（神戸大

学)、我妻鉄也(千葉大学)

趣 旨：題名の「大学の量と質をさだめる制度」とは大学設置審査と認証評価(第三者評価)であり、量とは学生数などの規模を、質とは教育課程の専門分野や特色などをさす。人口減少に対応して、日本では大学の退場促進政策を準備している。今回のラウンドテーブルでは、類似の課題に直面する国として、ベトナム、マレーシア、韓国、イギリスに注目して比較を行う。事例研究から浮上した仮説として、人口減少を緊急課題とする国では大学を介して国内外から人材確保をすすめ、近未来の課題とする国では、財政支出を抑制しつつ大学の拡大と質向上をはかって将来にそなえているようにみえる。

テーブル 12 大学におけるアントレプレナーシップ教育の展開

—社会課題に関与し、新たな価値を生み出す精神をいかに育むか—

会 場：1-412 教室

企画者：山田剛史(関西大学)、後藤燿(デロイトトーマツ)、家島明彦(大阪大学)、富田佳奈(東京大学)

趣 旨：現代は正解なき予測困難な時代と表現される。学生と社会全体のウェルビーイング向上を目指す取組としてアントレプレナーシップ教育が注目されている。文部科学省は、起業家育成だけのビジネス教育とは異なり、「自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」と定義し、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業を展開している。本 RT では、当該事業を受託・運営するデロイトトーマツの後藤氏、三菱みらい育成財団の採択事業「ソーシャル・アントレプレナーシップ育成プログラム」を担当する関西大学の山田、同採択事業「産学連繋型教育プログラム(QBIC)」を担当する大阪大学の家島氏の3名より話題提供を行う。

テーブル 13 大学の教学マネジメントに資する「関係モデル」の構築・遂行に関する

国際比較研究(1)

会 場：1-413 教室

企画者：杉本和弘(東北大学)、林透(金沢大学)、森利枝(大学改革支援・学位授与機構)、劉文君(東洋大学)、野田文香(大学改革支援・学位授与機構)、鄭漢模(北海道大学)

趣 旨：大学教育に係る質保証の仕組みは世界各国で導入・整備・運用が進められてきた。しかし、質保証を構成する外部質保証、内部質保証、IRを活用した教学マネジメントについて、それらが相互にどのように関係し合っているかの解明は必ずしも十分でない。本研究では、外部質保証・内部質保証・IRを活用した機関レベルの教学マネジメントの相互関係性を総体的に捉え、国際比較を通して、教学マネジメントを最適化し得る関係モデルの構築可能性を考察する。今回のラウンドテーブルでは、主要国における外部質保証を中心に据え、機関レベルの教学マネジメントに影響を与える外部質保証の構造・機能・変容を考察し、その特徴や課題について議論する。

テーブル 14 保健医療福祉系大学における教養教育の問題(15)

—対人援助職の核を獲得する過程—

会 場：1-203 ラーニングコモンズ グループワークエリア

企画者：志水幸(北海道医療大学)、宮本雅央(北海道医療大学)、町田修三(高崎健康福祉大学)、遠藤良仁(岩手県立大学)、山下匡将(名古屋学院大学)、森元拓(東北公益文科大学)、中田亜希子(東邦大学)

趣 旨：本ラウンドテーブルは、近年議論されている保健医療福祉系資格の共通基礎課程構築の課題を踏まえ、対人援助職の核心について議論する。保健医療福祉系大学でも、“ウェルビーイング”や“ヘルスプロモーション”などの概念を掲げ、多学部・学科で取り組む多職種連携や地域課題探求型の授業展開が散見されるようになった。その中で、学生らが何を獲得しているか、また、対人援助職として何を獲得すべきか、そして、それらの核心と教養教育のあり方との関連について参加者とともに議論したい。

テーブル 15 大学教育研究者はどのように研究成果を発信するのか

—雑誌連載、書籍出版を経験した事例を通して研究アウトプットについて考える

会場：1-209 KUISs ルーム

企画者：上島洋佑（新潟大学）、谷美奈（帝塚山大学）、山地弘起（大学入試センター）、遠藤健（早稲田大学）

趣旨：本ラウンドテーブルのテーマは、大学教育研究を行う者が、自らの実践や研究の成果を社会にどのように発信するかについて考えることである。さらには、若手研究者がどのように自らの研究成果を雑誌、書籍等で発信し、業績を蓄積するかについても焦点を当てる。このテーマは、昨今アカデミア全体の研究力低下が問題視される中で、若手研究者のキャリアを支援できるという意義があるものと考えられる。本ラウンドテーブルでは雑誌連載、書籍出版を経験した者の事例と若手研究サロンに関する参考事例を報告する。その上で、SNS や動画配信、研究サロン、サイエンスカフェなどの紙媒体だけではない発信可能性も含めてラウンドテーブル内で検討する。

テーブル 16 教育担当教員であるということ：日豪の事例に基づく批判的談話分析の試み

会場：1-213 コラボレーションルーム

企画者：佐藤万知（京都大学）、丸山和昭（名古屋大学）、立石慎治（筑波大学）、杉原真晃（聖心女子大学）

趣旨：豪の大学は、教育専任教員ポストを制度的に導入し、キャリアパス等の整備等に取り組んでいる。一方、日本の大学では、働き方として教育専任の状態である教員は多く存在するものの、教育専任教員ポストの制度化は進められていない。しかし、いずれの形態においても、大学教員に対するイメージが存在し、その影響が制度設計やさまざまな言説に立ち現れている。本企画では、日本と豪の教育専任（状態）教員に対して行ったインタビューを批判的談話分析のアプローチで分析した結果を共有する。そして日本と豪の対応の違いが、どういう理屈として語られるのかを提示する。その上で、日本における大学教員ポストのあり方について、フロアと議論をする。

テーブル 17 【課題研究】卒業研究教育の評価のあり方の検討

会場：1-436 教室

企画者：山田嘉徳（関西大学）、西野毅朗（京都橘大学）、岩田貴帆（関西学院大学）、山内洋（大正大学）、土井義夫（朝日大学）、川上忠重（法政大学）、篠田雅人（早稲田大学）、服部律子（奈良学園大学）、佐々木誠（秋田大学）、串本剛（東北大学）

趣旨：本学会課題研究では、学士課程における卒業研究教育の目標・評価・方法の現状と課題を明らかにしつつ、より効果的な卒業研究教育の実現方法について検討してきた。本ラウンドテーブルでは卒業研究教育の評価にまつわる論点を整理することを通して、今後の調査・分析に向けた視点を提起することを目指す。評価実践の実際については、2023 年に実施した全国調査の結果を踏まえながら、インタビューや事例検討を実施してきた。そこで、卒業研究教育の評価実践の報告や関連するデータ、さらに全国調査により収集された実際の評価基準を手がかりにして、卒業研究教育の評価のあり方について参加者とともに検討する機会とする。

テーブル 18 【課題研究】男女共同参画、教職協働のリアル

—SDGs の観点から考える職場としての大学—

会場：1-503 教室

企画者：吉永契一郎（金沢大学）、清水栄子（追手門学院大学）、ダガンさかの（金沢大学）、私市佐代美（武庫川女子大学）、奈良雅之（目白大学）、前田ひとみ（目白大学）、福島真司（大正大学）、上田忠憲（大正大学）、上島洋佑（新潟大学）

趣旨：本課題研究は SDGs の観点から、大学における男女共同参画・教職協働・働き方改革を検討するものである。2022 年度には学会員を対象としたアンケート調査を実施した。本ラウンドテーブルでは、この調査結果からさらに発展させ、教職協働に関しては「個人別態度構造分析」を用い個人別に要素の抽出と概念の構造を分析した結果を 3つの視点（場・促進要因・阻害要因）から報告する。男女共同参画に関しては、「ロールモデル」および「人事評価制度」に焦点を当てた 2大学の事例紹介を行い、フロアを交えて各大学の現状と課題について議論したい。

12:00～13:00 昼食

13:00～13:40 事業報告会 会場：1-536 教室

13:50～14:00 開会行事 会場：1-536教室

14:10～15:00 基調講演

会場：1-536 教室

演題：韓国大学教育からみた日本へのインプリケーション(仮)

講師：張 濟国 氏（韓国大学教育協議会前会長・東西大学校総長）

司会：中井 俊樹 氏（愛媛大学）

15:10～17:30 シンポジウム

「大学教育は持続可能か？～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に
日本の大学教育はどう立ち向かうのか～」

会場：1-536 教室

シンポジスト：張 濟国 氏（韓国大学教育協議会前会長・東西大学校総長）

大森 昭生 氏（共愛学園前橋国際大学学長）

青山 貴子 氏（山梨学院大学学長）

伊藤 学司 氏（文部科学省大臣官房審議官(高等教育担当)）

モデレーター：濱名 篤 氏（関西国際大学）

6月9日（日）

9:30～ 受付

10:00～12:00 自由研究発表 I （○は登壇者）

部会 1 教育評価

会場：1-303 教室

司会：山田剛史（関西大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）

10:00～10:20 大学での学びや経験と卒業後における大学教育の有用性に対する評価との関係

○西出崇（小樽商科大学）

10:20～10:40 研究公正教育における多様な大学院生の評価に向けたレポート論題の工夫

○市田秀樹（大阪公立大学）、成瀬尚志（大阪成蹊大学）、中村征樹（大阪大学、非会員）

10:40～11:00 京都産業大学での学習成果の可視化に向けた授業アンケートのみなおしについて

○京都産業大学 教育支援研究開発センター（京都産業大学）

11:00～11:20 インタビューを通じてみえた学生による大学認識のリアリティ

○奥村百香（京都大学大学院）

11:20～11:40 「大学での学習が仕事に役立った経験」は仕事に役立つか？

○木村弘志（東京大学）

11:40～12:00 総合討論

部会 2 大学論・大学運営（1）

会場：1-313 教室

司会：川嶋太津夫（大阪大学）、白川優治（千葉大学）

10:00～10:20 コロナ世代の特徴から若者像の背景を探る

○田上正範（追手門学院大学）

10:20～10:40 国立大学におけるプロボストに関する研究 —インタビュー調査を通じて

○鈴木拓人（筑波技術大学）、岩野摩耶（山口大学）

10:40～11:00 スタートアップの DNA を活かした KIT カンボジアの教育モデル

○釜我昌武（キリロム工科大学）、戸田千速（前・東京大学大学院）

11:00～11:20 大学における多様な学びの実現

○竹内彩乃（東邦大学）、平田幸輝（東邦大学、非会員）

11:20～11:40 我が国の大学の中期計画の策定・運用に関する現状と課題—アンケート調査結果を基に

○高田英一（神戸大学）、森雅生（東京工業大学）、高松邦彦（東京工業大学）、大石哲也（九州工業大学、非会員）、関隆宏（新潟大学、非会員）、小柏香穂理（お茶の水女子大学、非会員）

11:40～12:00 総合討論

部会 3 学士課程教育（1）

会場：1-314 教室

司会：井下千以子（桜美林大学）、丸山和昭（名古屋大学）

10:00～10:20 専門的知識・知識の発揮としての能力・ジェネリックスキルの関係
—卒業生調査を事例として

○二宮祐（群馬大学）

10:20～10:40 統合性のある学士課程教育試論

○吉永契一郎（金沢大学）、鈴木久男（北海道大学）、斉藤準（帯広畜産大学）、細川敏幸（北海道大学）

10:40～11:00 ライティング教育における学習者の文章評価と学習態度の関係

○渡寛法（日本大学）、中島宏治（早稲田大学、非会員）

11:00～11:20 コンピテンシーを育成する効果的なカリキュラムのデザイン

—PEPA を軸とする歯学教育プログラムを履修した卒業生の語りにもとづいて—

○小野和宏（新潟大学）、斎藤有吾（新潟大学）、上島洋佑（新潟大学）、丹原惇（新潟大学）、秋葉陽介（新潟大学、非会員）、秋葉奈美（新潟大学、非会員）、松下佳代（京都大学）

11:20～11:40 「産業社会に有用な人材」と「市民性」の育成を統合するサービスラーニングの可能性

○杉原真晃（聖心女子大学）

11:40～12:00 総合討論

部会 4 学士課程教育（2）

会場：1-335 教室

司会：堀井祐介（大阪大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）

10:00～10:20 大学教育に内的時間意識を反映させるには？—研究者の「おもしろい」言説に注目して

○井田浩之（城西大学）

10:20～10:40 1年次の大学適応感ならびにキャリア意識と3年次の汎用的技能の習得度との関連

○澤田忠幸（石川県立大学）、垣花渉（石川県立看護大学）

10:40～11:00 大学の教学マネジメント情報に関する学生の意識調査

○藤木清（関西国際大学）、望月雅光（創価大学）、林透（金沢大学）、大関智史（宮崎大学）

11:00～11:20 米国の学士課程教育におけるキャップストーン経験の実施方法の特質
—スタンフォード大学を事例に—

○中島夏子（東北工業大学）

11:20～11:40 高校・大学における学びの経験と教養・専門教育への意識との関連

○岡田有司（東京都立大学）、山田剛史（関西大学）、半澤礼之（北海道教育大学）、家島明彦（大阪大学）

11:40～12:00 総合討論

部会5 学士課程教育（3）

会場：1-336 教室

司会：杉本和弘（東北大学）、高橋哲也（大阪公立大学）

10:00～10:20 大学間越境学習における学生の学びと成長について

○川妻篤史（桐蔭横浜大学）、古賀友樹（桐蔭横浜大学）、溝口侑（桐蔭横浜大学）、成田秀夫（桐蔭横浜大学）

10:20～10:40 文理融合教育における教育プログラムに関する研究：学際的思考の観点から

○正司豪（早稲田大学大学院）、廣瀬心咲（早稲田大学、非会員）、尾澤重知（早稲田大学）

10:40～11:00 日本の看護学系大学の教養教育効果検証の試み（2）

○上畠洋佑（新潟大学）

11:00～11:20 メタ認知尺度（MAI）を用いたコロナ後の大学生の深い学びの状況について

○金西計英（徳島大学）

11:20～11:40 教養教育における睡眠教育と大学生の睡眠習慣の改善

○林光緒（広島大学）

11:40～12:00 総合討論

部会6 学生支援（1）

会場：1-403 教室

司会：安部有紀子（名古屋大学）、川越明日香（熊本大学）

10:00～10:20 職員が主体となって学生教育に取り組む準正課教育プログラムの課題の整理

○前川悠（桐蔭横浜大学）、古賀友樹（桐蔭横浜大学）、成田秀夫（桐蔭横浜大学）

10:20～10:40 発達障害のある学生の就労支援V

○田実潔（北星学園大学）

10:40～11:00 統合的な学びのための学生支援プログラムの開発について

—メリーランド大学の事例をもとに—

○安部有紀子（名古屋大学）

11:00～11:20 学生支援における効果的な教職協働の要因—事例的考察を踏まえて—

○深尾暁子（国際基督教大学）、渡辺暁里（国際基督教大学）

11:20～11:40 総合討論

部会7 教育方法・教育改善（1）

会場：1-412 教室

司会：沖裕貴（立命館大学）、筒井洋一（大谷大学）

10:00～10:20 地域連携型 PBL が抱える課題と機会 —学校と地域を往還する学びの展望—

○広石英記（東京電機大学）

10:20～10:40 コロナ禍以後の対面授業 —危機遭遇時の対面授業から、ハイブリッド授業への転換—

○筒井洋一（大谷大学）

10:40～11:00 学部段階 PBL の知財リスク対応実践報告

○木村友久（帝京大学）、李永淑（帝京大学、非会員）

11:00～11:20 CLIL 手法を用いた理系教科の学習における、英語使用がもたらす多様な教育効果の可

能性

○安村友紀（東京農工大学）、伊藤夏実（東京農工大学、非会員）

- 11:20～11:40 文系大学生の言語学習観
～日本語と英語を連携させた言語学習に対してどのように考えているのか～
○秋山英治（愛媛大学）、三好徹明（関西国際大学、非会員）

11:40～12:00 総合討論

部会 8 教育方法・教育改善（2）

会場：1-413 教室

司会：村上正行（大阪大学）、杉森公一（北陸大学）

- 10:00～10:20 文理融合教育・STEAM 教育のカリキュラム開発に関する実践的考察
～金沢大学「知識集約型社会を支える人材育成事業」を通して～

○林透（金沢大学）

- 10:20～10:40 自己調整学習方略を取り入れた大学生へのフィットネス教育がもたらす体力の変容

○垣花渉（石川県立看護大学）、澤田忠幸（石川県立大学）

- 10:40～11:00 文章力育成のためのナラティブアプローチの試み

○三浦真琴（関西大学）

- 11:00～11:20 フォロワーシップ導入によるリーダーシップ教育の変化

——X 大学での実践における教員の行動変化から——

○野間川内一樹（岡山理科大学）

- 11:20～11:40 大学通信教育における学修支援の類型と機能に関する考察

○山鹿貴史（小田原短期大学）、古塚典洋（星槎大学）、小暮克哉（信州大学）

11:40～12:00 総合討論

部会 9 教育方法・教育改善（3）

会場：1-436 教室

司会：佐藤万知（京都大学）、斎藤有吾（新潟大学）

- 10:00～10:20 多文化協働教育におけるインクルーシブ・リーダーシップの研究：多国籍キャンパスにおける教育実践から見えてきたこと

○カッティング美紀（立命館アジア太平洋大学）、平井達也（明治大学、非会員）、木村力央（立命館アジア太平洋大学、非会員）、秦喜美恵（立命館アジア太平洋大学、非会員）、Mahichi Faezeh（立命館アジア太平洋大学、非会員）

- 10:20～10:40 大学授業における学生の転移可能なレベルの理解の到達

ーデジタル Diamond Mandala Matrix (dDMM) を活用してー

○小林祐也（京都情報大学院大学）、小林信三（京都情報大学院大学、非会員）、青木成一郎（京都情報大学院大学）、土持法一（京都情報大学院大学）

- 10:40～11:00 SA (Student Assistant) にコミュニティは必要か？

○勝野喜以子（成蹊大学）、佐藤万知（京都大学）、鈴木学（福岡大学）、加藤かおり（国立教育政策研究所）

- 11:00～11:20 個別最適な学びのためのつまずきのプロセス分析

○劉卿美（長崎大学）、橋本優花里（長崎県立大学）、橋本健夫（西九州大学）

- 11:20～11:40 アクティブラーニング型一般教育科目「環境研究」と正課外環境活動を連携させることの意義 ～批判的思考と創造性などのコンピテンシーを育む観点から～

○布柴達男（国際基督教大学）、藤沼良典（国際基督教大学）

11:40～12:00 総合討論

部会 10 高大連携・高大接続（1）

会場：1-203 ラーニングコモンズ グループワークエリア

司 会：榊原暢久（芝浦工業大学）、葛城浩一（神戸大学）

10:00～10:20 通信制から見る高大接続の論点整理

○澁川幸加（中央大学）

10:20～10:40 大学の学部選択における Late Specialization 教育の重要性 – 専門学校入学時と大学編入時における学習意欲の変化 –

○新里卓（日本外国語専門学校）

10:40～11:00 「高等教育への移行」研究の展開

○田中孝平（京都大学大学院）

11:00～11:20 大学入試と大学教育の狭間における経験とその実態

– 大学合格から大学入学までの期間における高校生の語りを通して –

○岡田航平（京都大学大学院）

11:20～11:40 総合討論

部会 1 1 初年次教育（1）

会 場：1-212 コラボレーションルーム

司 会：田中岳（岡山大学）、清水栄子（追手門学院大学）

10:00～10:20 生成 AI を活用した大学初年次のライティング指導

– e-learning 教材作成の効率化と“壁打ち”を通じた思考の深化 –

○大塚みさ（実践女子大学短期大学部）、三田薫（実践女子大学短期大学部）

10:20～10:40 単位の実質化を意識した授業設計の効果と限界：初年次統一科目「学問論」の挑戦

○串本剛（東北大学）

10:40～11:00 大学における心理的安全性を育むための試み

– プロジェクトアドベンチャーの取組を通して –

○松尾美香（岡山理科大学）、望月雅光（創価大学）

11:00～11:20 大学 1 年生のリフレクション分析を用いた代表的な AI エンジンの特性比較の試み

○高橋博美（創価大学）、関田一彦（創価大学）

11:20～11:40 専門分野への接続に向けた初学者ライティング指導の課題

○近藤裕子（山梨学院大学）、中村かおり（拓殖大学）、向井留実子（元東京大学）

11:40～12:00 総合討論

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 自由研究発表 II （○は登壇者）

部会 1 2 大学院

会 場：1-303 教室

司 会：近田政博（神戸大学）、山田礼子（同志社大学）

13:00～13:20 大学院生の教育歴形成を阻む壁—上級 TA 制度が抱える課題

○近田政博（神戸大学）

13:20～13:40 対面とオンラインを融合した体系的な FD プログラムの開発

– 大学院生を対象としたプレ FD から新任教員 FD への接続 –

○川越明日香（熊本大学）

13:40～14:00 米国における高等教育領域の Ed.D.プログラムと Ph.D.プログラムの差異の表現

– 両課程を併設する大学院の Web サイト掲載情報に着目して –

○丸山和昭（名古屋大学）

14:00～14:20 大学院の学際教育プログラムの学修成果に関する事例研究：社会科学系博士課程学生の

語りを手がかりに

○竹永啓悟（名古屋大学）

14:20～14:40 総合討論

部会 1 3 大学論・大学運営（2）

会場：1-313 教室

司会：鳥居朋子（立命館大学）、塚原修一（関西国際大学）

13:00～13:20 なぜ私立大学は大学院を設置・維持するのか

○森山寛（京都大学大学院）

13:20～13:40 大学経営における内部組織のパワーバランスと自律性

ー私立大学事務局長調査の結果からー

○篠田雅人（早稲田大学）、山崎その（京都外国語大学）、鎌田雅子（中央大学大学院）、山咲博昭（広島市立大学）、秦敬治（岡山理科大学）

13:40～14:00 日米の大学における教育プログラム分類手法の比較研究

○藤原宏司（山形大学）、山本幸一（明治大学）、田中秀典（宮崎大学、非会員）

14:00～14:20 臨時教育審議会とは何だったのか ー第一次答申を中心に考えるー

○鳥居聖（学生文化創造）

14:20～14:40 総合討論

部会 1 4 学士課程教育（4）

会場：1-314 教室

司会：深堀聰子（九州大学）、林透（金沢大学）

13:00～13:20 学修行動比較調査の結果にみえた正のコロナ効果と教学における質的転換

○半田智久（東京家政学院大学）

13:20～13:40 ユニバーサル化されたアントレプレナーシップ教育：研究と実践

○鈴木久男（北海道大学）、細川敏幸（北海道大学）、吉永契一郎（金沢大学）、齊藤準（帯広畜産大学）

13:40～14:00 生成 AI を活用したプログラムレベルの学習成果の評価のサポートシステムの開発と検討

○斎藤有吾（新潟大学）、熊澤隼斗（株式会社ラクウェブ、非会員）、横野大介（新潟大学、非会員）

14:00～14:20 東京大学学部前期課程教育における教養教育の変遷

ー大綱化以降の授業科目概要の分析を通じてー

○高本尽（東京大学）

14:20～14:40 現代日本の大学における「教養教育」の構造と特性：科目区分名称による検討

○白川優治（千葉大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 1 5 学士課程教育（5）

会場：1-335 教室

司会：串本剛（東北大学）、福留東土（東京大学）

13:00～13:20 デザイン思考に基づく大学教育ースタンフォード大学 d.school に関するケーススタディー

○福留東土（東京大学）

13:20～13:40 韓国におけるマイクロレデンシャルの利活用に関する動向と課題

○鄭漢模（北海道大学）

13:40～14:00 学生の生成 AI 利用とその利用目的に関する一考察：意識調査の結果から

○齋藤渉（東北学院大学）

14:00～14:20 国立大学キャリアセンター教職員の環境変化に対するジョブ・クラフティング志向

○佐藤幸代（南山大学）

- 14:20～14:40 有機化学の学習に役立つ複数の学習ゲームの開発とそれらの連結の可能性
○伊藤賢一（日本大学）、岡田真紀（日本大学、非会員）、五味悠一郎（日本大学、非会員）、粟飯原萌（日本大学、非会員）、早川麻美子（日本大学、非会員）

14:40～15:00 総合討論

部会 16 教職員の能力開発

会場：1-336 教室

司会：出光直樹（横浜市立大学）、竹中喜一（近畿大学）

- 13:00～13:20 大学教員間における「小さな」学習観の共有
—授業改善を目的とした振り返り時の対話から—
○三宅若菜（東京経済大学）、久川伸子（東京経済大学）
- 13:20～13:40 職務系列別人事を通じた事務職員のキャリア形成における慣行と変容
—大規模国立大学 A を事例とした M-GTA による質的研究—
○武藤英幸（名古屋大学）
- 13:40～14:00 FD/SD の歴史的展開に関する研究——情報社会学の視点からの考察
○築地達郎（龍谷大学）
- 14:00～14:20 再現性の高い業務改善支援方法の紹介 —自律的な改善活動に向けて—
○森雅生（東京工業大学）、今井匠太郎（東京工業大学、非会員）
- 14:20～14:40 総合討論

部会 17 学生支援（2）

会場：1-403 教室

司会：岩崎千晶（関西大学）、江本理恵（北海道大学）

- 13:00～13:20 米国におけるファーストジェネレーション学生支援・研究についての考察
○池田美穂（千葉大学）
- 13:20～13:40 日本の大学における専攻選択支援 —東京大学の支援に関する歴史的研究—
○吉岡香奈（東京大学大学院）
- 13:40～14:00 入学前教育を入学後の学生支援につなげる試み
○有田亜希子（清泉女子大学）、山浦泉（清泉女子大学）、吉岡昌紀（清泉女子大学）、中川裕二（清泉女子大学、非会員）
- 14:00～14:20 ピアサポート組織の立ち上げプロセスへの学生の深い関与と参画動機：コロナ禍後に立ち上げられたピアサポート組織を事例として
○石井和也（宇都宮大学）
- 14:20～14:40 総合討論

部会 18 教育方法・教育改善（4）

会場：1-412 教室

司会：田口真奈（京都大学）、中島英博（立命館大学）

- 13:00～13:20 デジタル Diamond Mandala Matrix を用いた ICE モデルに基づき設計した大学での反転授業の実践と分析
○青木成一郎（京都情報大学院大学）、小林信三（NPO 法人 CCC-TIES、非会員）、小林祐也（京都情報大学院大学）、土持法一（京都情報大学院大学）
- 13:20～13:40 対話型論証モデルを用いた消費者教育における学生の「学習への深いアプローチ」に関する検討
○飯尾健（徳島大学）、三宅元子（名古屋女子大学）
- 13:40～14:00 学生が短期大学教育を他者へ推奨する要因はなにか
—短期大学生調査の結果を用いた検討—
○宮里翔大（桜美林大学）、堺完（桜美林大学）

- 14:00～14:20 文理融合・分野横断教育の探究的な学びの科目開発における現状と課題
—融合先導知実践演習（ちょこっとマイプロジェクト）を通して—
○山下貴弘（金沢大学）
- 14:20～14:40 教師の協働から生まれる「縦横」展開 — 汎用的アカデミック・スキルズ指導が高大接続・高等教育レベルのマルチリンガル教育に与える示唆 —
○加納なおみ（國學院大學）、赤木美香（お茶の水女子大学）、吉野舞起子（早稲田大学、非会員）、嶋田龍司（錦城高等学校、非会員）、佐藤有貴（十文字学園女子大学、非会員）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 19 教育方法・教育改善（5）

会場：1-413 教室

司会：西野毅朗（京都橘大学）、濱名篤（関西国際大学）

- 13:00～13:20 講演企画を通じた大学生の学び～地域活動や日常での実践へのつながり～
○櫻井典子（新潟大学）
- 13:20～13:40 メタバースにおけるソーシャルスキル訓練法開発のためのアバターの印象形成
○矢野香（長崎大学）
- 13:40～14:00 フィールド活動における主体的な学び-独自性と帰属感の視点から-
○亀倉正彦（名古屋商科大学）、小野裕二（名古屋商科大学、非会員）、椿田貴史（名古屋商科大学、非会員）
- 14:00～14:20 芝浦工業大学におけるグローバル人材育成のプログラム評価
—留学プログラムの効果測定—
○相原総一郎（芝浦工業大学）
- 14:20～14:40 研究ベース学習における模擬査読の方法と学習効果
○辻高明（長崎大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 20 教育方法・教育改善（6）

会場：1-436 教室

司会：井上史子（早稲田大学）、斉藤準（帯広畜産大学）

- 13:00～13:20 大学教育における学生の学習経験の拡大—学生と教職員のパートナーシップ構築を通して—
○井上史子（早稲田大学）、Dodo-Balu Andrea (The University of Melbourne、非会員)
- 13:20～13:40 大学生は本をどのように探したり選んだりしているか：質問紙調査から見る図書館サービスとしての AI を活用した文献探索システムの意義と課題
○野末俊比古（青山学院大学）、越前谷直之（富士通、非会員）、鈴木祐介（富士通 Japan、非会員）、前彩佳（富士通 Japan、非会員）、竹内祐喜（富士通 Japan、非会員）、本多政爾（富士通 Japan、非会員）、小島梨紗（富士通 Japan、非会員）
- 13:40～14:00 共通教育に関する教学データの分析と活用
—武蔵野大学における IR と FD の連携を事例に—
○長創一朗（武蔵野大学）
- 14:00～14:20 生成 AI の活用による教育改善の課題と可能性 - 記述の自動採点を題材として -
○斉藤準（帯広畜産大学）
- 14:20～14:40 産学官連携型 PBL における授業効果-課題解決力とリーダーシップの育成-
○稲田優子（桃山学院大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 2 1 高大連携・高大接続（2）

会場：1-203 ラーニングコモンズ グループワークエリア

司会：沖清豪（早稲田大学）、中井俊樹（愛媛大学）

13:00～13:20 高大接続改革における段階別評価をめぐる議論の再検証

○沖清豪（早稲田大学）

13:20～13:40 組織学習論を用いた国立大学入学者選抜改革プロセスの分析

○大野真理子（京都大学大学院）

13:40～14:00 高校での経験と大学教育の関連に関する実証的研究

○真鍋亮（愛媛大学）

14:00～14:20 総合討論

部会 2 2 初年次教育（2）

会場：1-212 コラボレーションルーム

司会：山本啓一（北陸大学）、上村和美（関西国際大学）

13:00～13:20 初年次インターンシップにおける事前学習およびモニタリングについて

○松坂暢浩（山形大学）、山本美奈子（山形大学、非会員）、藤原宏司（山形大学）

13:20～13:40 シティズンシップを育成する全学必修教養科目の運営と担当教員に対する調査

○東海大学学長室教育支援担当（東海大学）、田島祥（東海大学、非会員）、高梨宏子（東海大学、非会員）、池谷美衣子（東海大学、非会員）、二ノ宮リムさち（東海大学）

13:40～14:00 初年次教育における First Interest Groups (FIGs) の再検討

—ワシントン大学における実践事例の調査から—

○蝶慎一（香川大学）

14:00～14:20 目標達成プロセスにおいて学生が感じる困難と教員のサポートについての検討

○溝口侑（桐蔭横浜大学）、松井晋作（桐蔭横浜大学）、古賀友樹（桐蔭横浜大学）、川妻篤史（桐蔭横浜大学）、成田秀夫（桐蔭横浜大学）

14:20～14:40 技術文章作成の教育実践

—初年次ライティング科目と専門科目をつなぐ授業デザイン—

○中川祐香（大阪産業大学）、水谷夏樹（大阪産業大学、非会員）、藤長愛一郎（大阪産業大学、非会員）

14:40～15:00 総合討論

3. 参加申込みについて

本大会は会員および学生会員のみ、事前申し込みができます。4月12日(金)から、学会ウェブサイト内の会員ページから参加登録を行うことが可能です。5月23日(木)までが早期価格となり、オンライン決済(クレジットカード)にて参加費をお支払いください。

5月24日(金)以降は、一般価格にて、会員及び非会員の申込を受け付ける予定です。

事前申込（早期価格）期間：2024年4月12日(金)～5月23日(木)（オンライン決済）

一般申込（一般価格）期間：2024年5月24日(金)～（オンライン決済のみ）

【参加費用等一覧】

費用項目			申込日	
			早期価格 4月12日～5月23日	一般価格 5月24日～
参加費	一般	会員	5,000円	6,000円
		非会員		6,000円
	学生	会員	2,000円	3,000円
		非会員		3,000円
情報交換会費	一般	会員	5,000円	6,000円
		非会員		6,000円
	学生	会員	2,000円	3,000円
		非会員		3,000円
6月8日お弁当代			1,000円	
6月9日お弁当代			1,000円	

注 非会員の参加費等は税込の金額です。

(ただし、本学会は免税事業者のため消費税の申告・納付は免除されています)

- 払い込みされた参加費等は、理由を問わず返却いたしません。
- やむを得ずクレジットカードが利用できない場合は学会業務取扱センター (g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp) までお問合せください。＝事前申込期間の場合のみ、口座振り込み先をご案内します。
- 開催両日は会場となる1号館の学生食堂を営業しますのでご利用ください。また、お弁当を販売しますので、参加申込の際に併せてお申し込みください(会員のみ可)。
- <団体会員について> 団体会員の場合、1アカウントしかいないため、1名しか申し込むことができません。それ以外の参加者については、学会業務取扱センター (g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp) までご連絡ください(5月20日まで)。追加でアカウントを発行しますので、そちらで参加事前申込をしていただくこととなります。
- ご登録名義以外でのお支払い(公費で払い込み)の場合、別途学会業務取扱センター (g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp) まで、支払日・金額・名義・明細等を必ずご連絡ください。

4. 大会会場へのアクセス

＜関西国際大学 神戸山手キャンパスへのアクセス＞

関西国際大学神戸山手キャンパス 1号館

https://www.kuins.ac.jp/about/campus_guide/kobeyamate.html



神戸山手キャンパス 1号館



【新神戸駅から】

- 神戸市営地下鉄筋線「新神戸」駅から「県庁前」駅下車、北へ徒歩5分

【関西国際空港から】

- JR「大阪」駅乗り換えで「三ノ宮」駅下車、神戸市営バス7系統「三宮駅前」から「諏訪山公園下」下車徒歩1分

【大阪国際空港（伊丹空港）から】

- 大阪モノレール「大阪空港」駅から「蛍池」駅で乗り換え、阪急宝塚本線「蛍池」から「十三」駅で神戸本線に乗り換え、「神戸三宮」下車、神戸市営バス7系統「三宮駅前」から「諏訪山公園下」下車徒歩1分

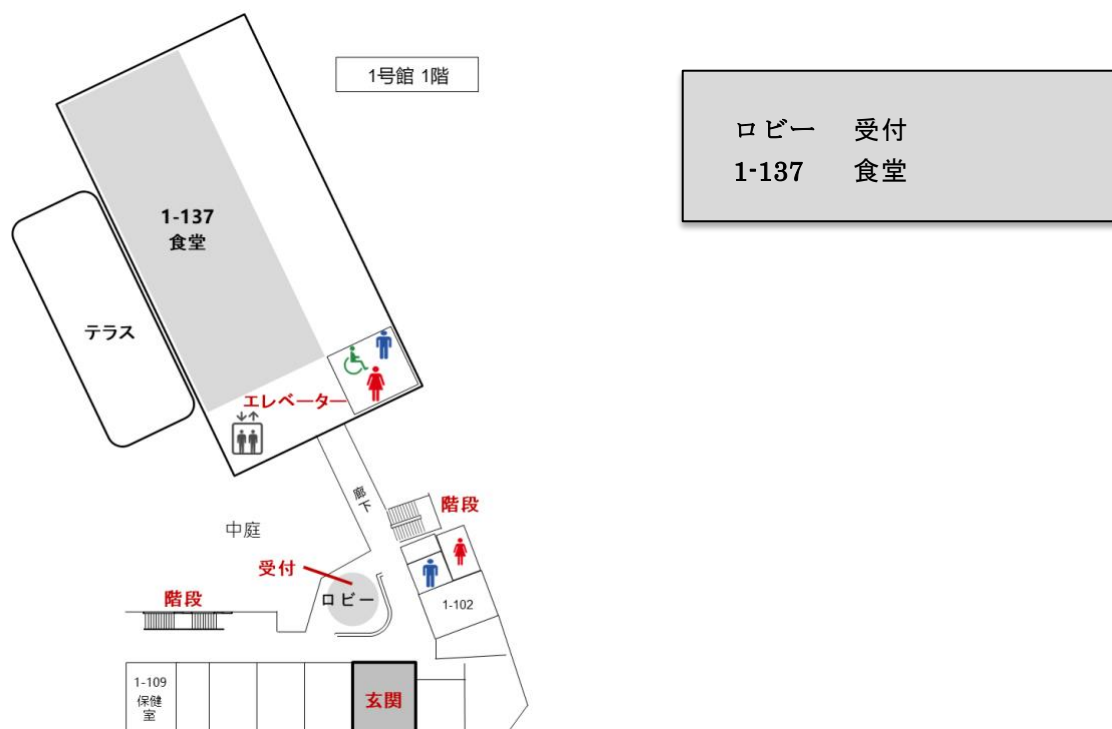
【神戸空港から】

- 神戸新交通ポートアイランド線「神戸空港」駅から「三宮」駅下車、神戸市営バス7系統「三宮駅前」から「諏訪山公園下」下車徒歩1分

※神戸山手キャンパスには来客用駐車場はありません。また、近隣の時間貸し駐車場も少ないため、公共交通機関でお越しくださいますようお願いいたします。

5. フロアマップ

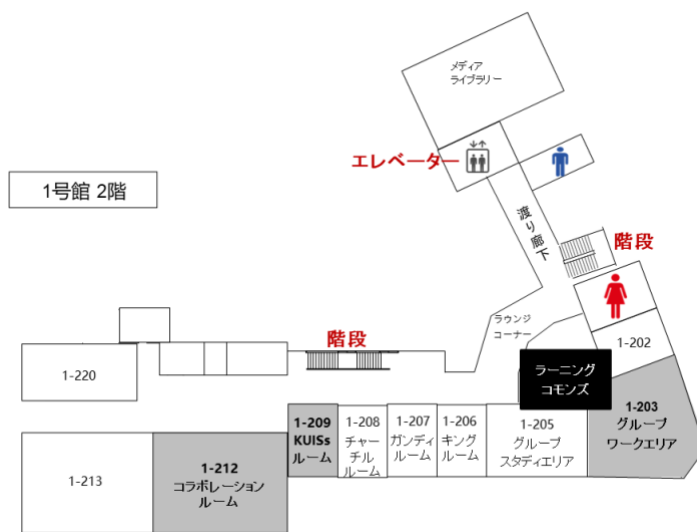
◆1号館 1F 構内図



※1階ロビーにあるコピー機やコインロッカーは使用できませんのでご注意ください。

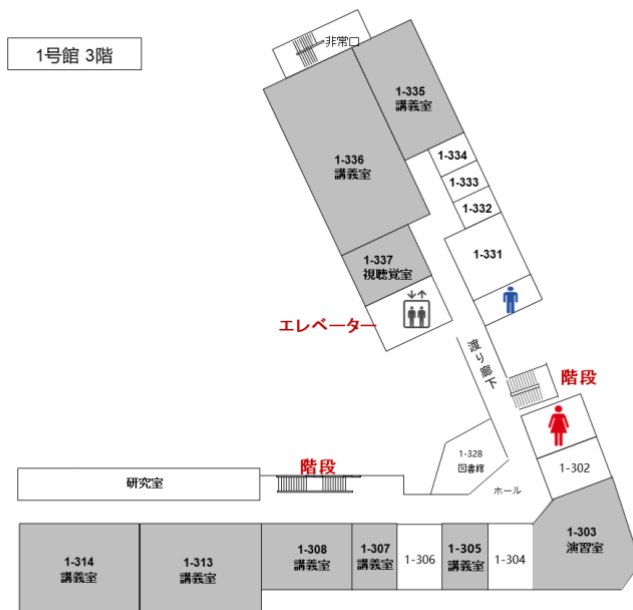
※テラス席での飲食が可能です。弁当購入の方はご利用ください。

◆1号館 2F 構内図



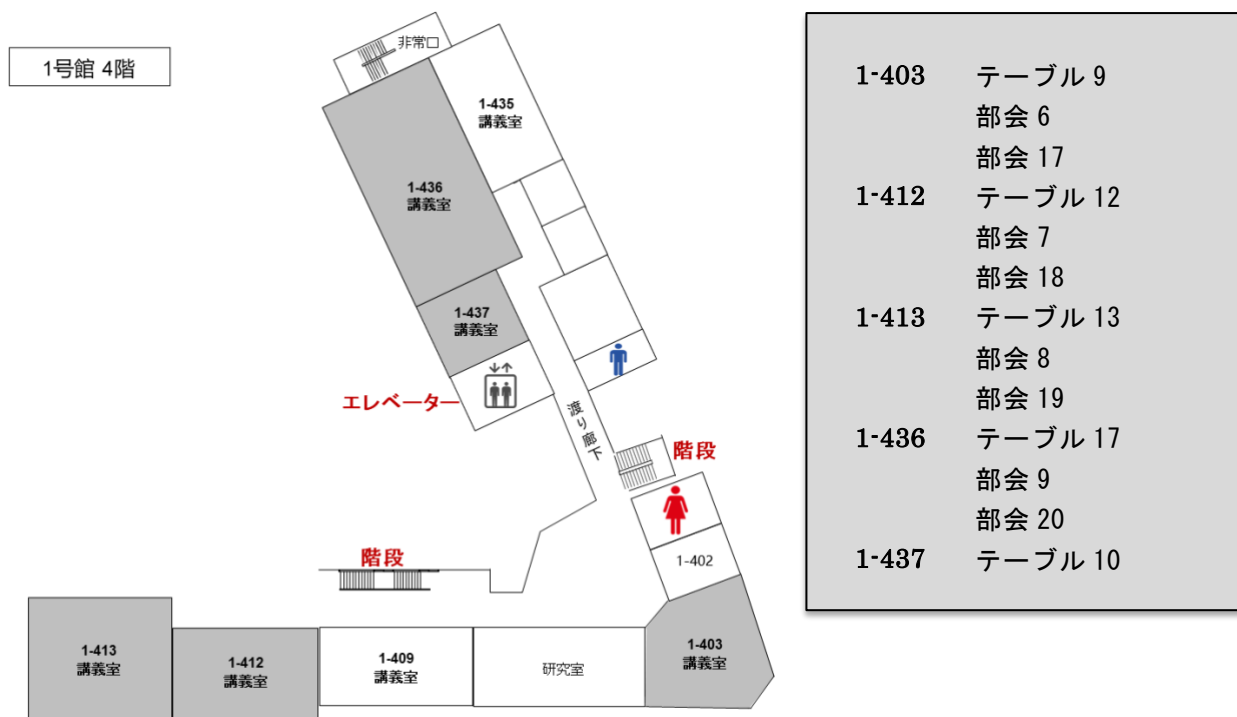
1-203	テーブル 14 部会 10 部会 21
1-209	テーブル 15
1-212	テーブル 16 部会 11

◆1号館 3F 構内図



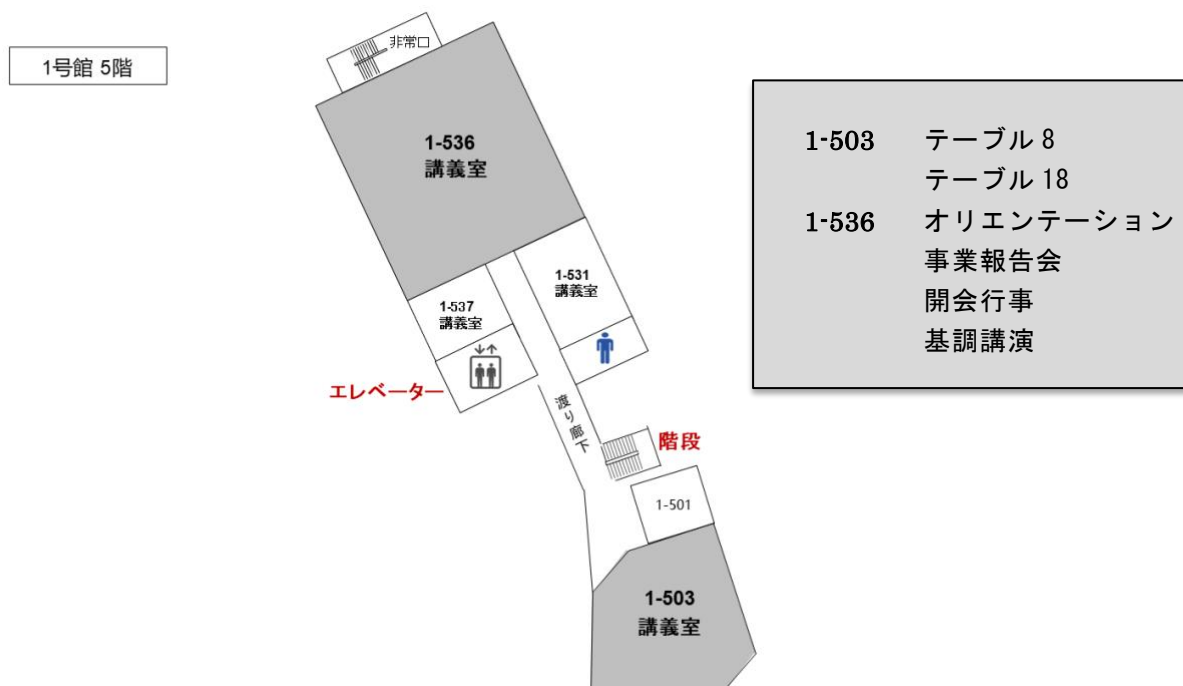
1-303	テーブル 1 部会 1 部会 12
1-305	テーブル 2
1-307	テーブル 3
1-308	テーブル 4
1-313	テーブル 6 部会 2 部会 13
1-314	テーブル 5 部会 3 部会 14
1-335	テーブル 8 部会 4 部会 15
1-336	テーブル 11 部会 5 部会 16

◆1号館 4F 構内図




※1-409 講義室向かいの階段からは、5階に移動することができません。ご注意ください。
 ※1-435 は当日休憩室となります。この部屋での飲食が可能です。ご利用ください。

◆1号館 5F 構内図



※5階に女性用トイレはございません。
 ※階段が1か所しかございませんので、会場への移動は余裕をもってお越しください。

注意事項

- ・ 大きなお荷物は、クローク（1号館玄関横）にてお預かりいたします。ご利用ください。
 - ・ 自由研究発表、ラウンドテーブルの会場には、大会校では発表用のPCを準備いたしません。PCを用いる場合は、各自ご準備ください。HDMIケーブルは各部屋に準備いたします。
 - ・ 会場にて無線Wi-Fiに接続することができます。接続方法は当日ご案内します。
 - ・ 本大会では託児サービスをご用意します。満2歳から就学前までのお子様を対象です。本大会事前申込期間内に、別途以下の専用フォームよりお申し込みください（先着10名）。当日の申し込み受付は致しかねますのでご承知おきください。
※不測の事故に対応するために保険に加入いただきます。また、大会企画委員会・実行委員会は、事故の責任は負わないことを申し添えます。
 - ・ 託児サービス申込専用フォームはこちら
<https://forms.gle/KYUpmapsP2rec7d3A>
- 
- ・ 宿泊ホテルは各自でお手配ください。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

第46回大会（2024年）に関するお問い合わせ

大学教育学会 第46回大会実行委員会

E-mail : jacue2024@kuins.ac.jp

※メールの件名には、「大学教育学会第46回大会に関する問い合わせ」とご記入ください。